



のびのび

No.64



2008年2月1日発行

発行所：医療法人ふるかわ医院

〒619-0221

京都府木津川市吐師宮ノ前 15-18

Tel / fax 0774-75-2650

予約専用電話 ☎0774-75-2652

<http://www.furukawa.or.jp>

喘息と花粉症は同時に起こる

喘息と花粉症が、一緒に起こることがよくあります。鼻と肺はつながっているのです、お互いに影響を与えあいます(One Airway, One Disease)。ですから、花粉症と喘息、両方の病気を診察して治療しなければなりません。院長は、日本アレルギー学会の専門医で、両方の治療を行っています。学会から出ているガイドラインを参考に、各人に適した診療をしています。

喘息の治療は、吸入ステロイドが中心で、花粉症の治療は、抗アレルギー剤が中心です。これらを組み合わせて使うと効果的です。

また、薬も大事ですが、花粉を吸い込まないようにマスクをする、帰宅するとうがいをする、空気清浄機を使うなど、日常生活でも注意してください。2月中旬から本格的な花粉症の季節です。そろそろ、抗アレルギー剤を飲み始めることをお勧めします。



インフルエンザがじわじわと。。。

1月から大流行ではありませんがじわじわとインフルエンザの患者さんが増えてきました。

インフルエンザの検査は発熱後10~12時間経たないと正しく検査ができません。

検査方法は、鼻が出ていて鼻がかめる人はラップに探ってもらい専用のキットで調べます。しかし鼻が出ない人又は乳幼児で鼻チンできない人などは細い綿棒を鼻の奥の方まで挿入しますのでかなり痛いです。検査の結果は15分でできます。検査の結果インフルエンザであっても必ずタミフルを使うわけではありません。

本人の状態や先生と相談しながらとなります。

もちろん、希望があれば処方できます。

タミフルは1回飲み始めたら症状が改善しても最後まで(5日間)飲みきりましょう。

★熱が下がっても咳でウィルスを排出すると言われています。学校保健法では「解熱した後2日を経過するまで」が出席停止期間です。

この季節マスクは必需品！

★予防のためにマスクを普段からしておきましょう。

★エチケットとしても・・・

マスクをせずに咳やくしゃみをするとうイルスは2~3メートルも飛ぶといわれています。周りの人にも心遣いをしましょう。



しゅん..

感染性腸炎が流行っています！

吐物や便の処理中に吸い込んだり触ったりして感染しますので、吐物は新聞紙などにくるみナイロン袋に入れて廃棄しましょう。衣服やじゅうたんなどは塩素系消毒液ですばやく処理しましょう。処理時にはマスクやナイロン手袋を使用するのがベストです。

